

外科系診療科

16. 呼吸器外科	63
17. 泌尿器科	65
18. 外科	68
19. 腎臓移植外科	70
20. 小児外科	72
21. 整形外科	76
22. 皮膚科	82
23. 産婦人科	85
24. 眼科	88
25. 形成外科	90
26. 脳神経外科	91
27. 心臓血管外科	92
28. 耳鼻咽喉科	95
29. 麻酔科	96

●診療科の特色

1. 呼吸器外科では胸の中にある肺、縦隔などの病気を中心に手術を行っています。病気の診断、評価は呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携して行われ、手術で良くなる状況かどうかを判断しています。
2. 手術症例の6～7割は肺がんであり、命に関わる病気でもあるため肺がんには最も力を入れています。がんを治すことにこだわり、手術手技はもちろん、放射線、薬物療法を組み合わせることにより手術で治るかどうかが、ぎりぎりのところで差のつく高度な医療を提供できるよう心掛けています。当科では進行癌を扱うことが多く、今年度の手術症例の半数以上は術後補助化学療法が必要な肺がんでした。
3. 気胸、縦隔腫瘍などの多くの病気、難治性の病気などに対しても対応しています。最近増えている肺気腫、間質性肺炎、塵肺などに合併する難治性の気胸に対しては根気よく治療にあたる必要があります呼吸器内科、放射線科と話し合い、多くの治療戦略を立てて対応しています。
4. 胸腔鏡下手術に関してですが、当院では患者さんへの手術による体の負担、痛みを減らすため、また創部の綺麗さにこだわって、積極的に導入してきました。手術器具も年々進化しており、より安全になっています。さらに身体への負担を少なくする試みもありますが、当院の役割としては実績ある手技の技術を限りなく高めて患者さんに提供するスタンスです。
5. 初診の患者さん、そのご家族からは十分な時間をかけてお話を伺うようにしています。十分な説明の上、皆が前向きな気持ちで治療へと進めるよう心掛けています。
6. 一般に肺の手術は難易度が高い手技とされています。安全、かつ確実な手術を提供できるよう日々努めています。手術に入るスタッフが固定しているため安定した医療を提供できていると思います。

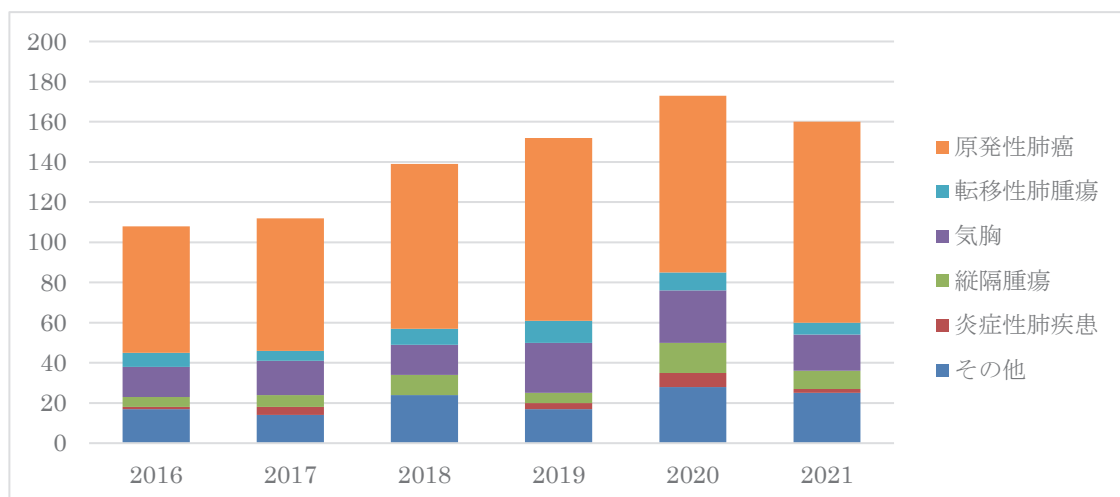
●入院診療実績

1. 主要手術(全身麻酔)

2021年度(2021.4～2022.3)手術件数 154件

	手術名	件数
1	原発性肺癌	95
2	転移性肺腫瘍	5
3	気胸	17
4	縦隔腫瘍	14
5	その他	23

2. 手術件数の推移(全身麻酔)



3. その他

● 研究業績

論文

- 1) M.Yoshikawa, Y.Hirami
Surgery for Right Upper Lobe Lung Cancer in a Patient With Bridging Bronchus
Ann Thorac Surg, 112, e411-e413, 2021, 11
- 2) 山原美穂, 吉川真央, 林直宏, 鳥越英次郎, 秋山一郎, 平見有二
乳癌に対するペバシズマブ併用化学療法中に発症した気胸に対して胸腔鏡下ブラ切除
+胸膜癒着術を行った一例
日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌, 21 巻, 29~32 ページ, 2021/3/1

学会

- 1) 平見 有二
局所進行胸腺腫に対して術前導入化学療法後に腫瘍切除+心嚢内処理を伴う隣接臓器合併切除を行った1例
第38回 日本呼吸器外科学会学術集会 2021年5月20日
- 2) 鳥越 英次郎
肺切除術中に致死的不整脈を起こした2例
第38回 日本呼吸器外科学会学術集会 2021年5月20日
- 3) 平見 有二
肺門部剥離困難であった右下葉肺癌に対して肺底区域レベルでの一括処理で完全切除を成した一例
第64回 関西胸部外科学会学術集会 2021年6月17日
- 4) 鳥越 英次郎
長期人工呼吸管理中に発生した気胸に対して胸腔鏡下手術を行った2例
第34回 日本内視鏡外科学会総会 2021年12月4日
- 5) 松岡 篤志
高齢女性に認めた増大傾向を示した中縦隔嚢胞の一例
第34回 日本内視鏡外科学会総会 2021年12月4日
- 6) 平見 有二
肺良性疾患③
第83回 日本臨床外科学会総会 2021年11月18日
- 7) 鳥越 英次郎
肺良性疾患②
第83回 日本臨床外科学会総会 2021年11月18日

● 診療科の特色

- 1) 当科は常勤医 3 名、レジデント 2 名で診療しており、成人の泌尿器科疾患全般を扱っています。診療の特色としては、癌患者が多数を占めており、増加傾向にあります。当科では、今後も泌尿器科癌を診療の中心として、この地域での「がんセンター」を目指したいと考えています。
- 2) 例年通り、手術は膀胱癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術がもっとも多く、その次は 2020 年より開始した上部尿路結石に対する経尿道的尿路結石除去術となっています。さらに前立腺肥大症に対する経尿道的手術が続きます。出血量が少ないバイポーラ電極による核出術を採用しており良好な成績となっています。
- 3) 移植用腎採取術(ドナー腎摘除術)を泌尿器科が担当しています。腎移植外科と協力して、中国・四国地方における拠点施設として腎移植医療の一翼を担っています。
- 4) がんの治療に関しては、患者さまと一緒に考え、手術、化学療法、放射線治療など高度で良質な医療を提供するように心がけています。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 554 件

	手術名	件数
1	副腎摘除術	5
2	腎摘・腎部分切除術	11
3	腎尿管全摘除術	14
4	経尿道的尿路結石除去術	62
5	移植用腎採取術	9
6	膀胱全摘除術	12
7	経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT, TURBO)	102
8	根治的前立腺全摘除術	17
9	経尿道的前立腺切除術 (TURP, TUEB)	35
10	前立腺生検	144

2. 泌尿器がんゲノム医療について

当院はがん診療連携拠点病院であるとともに、がんゲノム医療連携病院です。がん診療に対してさまざまな取り組みを行っていますが、その一つにゲノム医療があります。「ゲノム」とは、一人ひとりが持っているすべての遺伝情報のことです。正しく働くことで、私たちの体は成り立っています。しかし、時に正しく働けなくなるような遺伝子の変化(遺伝子変異)が現れます。この変化を検査することによって、病気の診断や治療を行うのが「ゲノム医療」です。がんゲノム医療では、がん患者さんによって異なるがんの遺伝子変異を「がん遺伝子パネル検査」とよばれる検査などで調べ、その情報にもとづいて診断や治療を行います。がんの原因となる遺伝子変異に着目することで、がん治療の選択肢が広がると期待されています。泌尿器科では、前立腺がんをはじめ、腎がんなどでゲノム医療を実践しています。

● 研究業績

論文発表

- 1) Ichiro Tsuboi, Yuki Maruyama, Takuya Sadahira, Nobuyoshi Ando, Yasuhiro Nishiyama, Motoo Araki, Takushi Kurashige, Takaharu Ichikawa, Ryoji Arata, Noriaki Ono, Toyohiko Watanabe, Syunji Hayata, Hiroaki Shiina, and Yasutomo Nasu.
Efficacy of holmium laser enucleation in patients with a small (less than 30 mL) prostate volume.
Investigative and Clinical Urology, 62(3), 298-304 2021 Apr
- 2) Risa Kubota, Tomoyasu Tsushima, Keisuke Doi, Yousuke Inoue, Yoko Shinno, Takaharu Ichikawa.
Pancreatic cancer diagnosed by the detection of gross hematuria due to urinary bladder metastasis:
A case report
MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY, 16(1), 23-27 2022 Jan
- 3) 佐久間貴文, 丸山雄樹, 定平卓也, 高本 篤, 和田耕一郎, 小林泰之, 荒木元朗, 渡部昌実,
渡辺豊彦, 那須保友
若年発症の前立腺炎症性偽腫瘍の1例
西日本泌尿器科, 83巻1号, 54-58 2021年4月1日
- 4) 大平 伸, 清水真次郎, 福元和彦, 永井 敦, 小谷俊一, 川西泰夫, 天野俊康, 内田洋介,
岩佐 厚, 木村将貴, 小林 皇, 小堀善友, 松下一仁, 市川孝治, 今井 伸, 梅本幸裕, 黒部匡広
勃起障害に対する Prostaglandin E1 陰茎海綿体自己注射の多施設共同臨床試験
日本性機能学会雑誌, 36巻3号, 131-141 2021年12月1日

学会、研究会

- 1) 市川 孝治
A case of late-onset hypogonadism syndrome with rapidly elevated prostate specific antigen
World Meeting on Sexual Medicine 2021 2021年11月19日
- 2) 市川 孝治
2019年NHO岡山医療センター泌尿器科 手術統計
第326回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021年2月22日
- 3) 佐久間 貴文
術後15年目に再発した褐色細胞腫の1例
第327回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021年5月15日
- 4) 白石 裕雅
当院における顕微鏡下精索除神経術の検討
第328回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021年9月18日
- 5) 市川 孝治
当院におけるLOH症候群症例の検討
第328回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021年9月18日
- 6) 白石 裕雅
ORBEYEを使用した精索静脈瘤手術の検討
第73回西日本泌尿器科学会総会 2021年11月6日
- 7) 大塚 崇史
多量の恥垢蓄積により外科的介入を要した1例
第73回西日本泌尿器科学会総会 2021年11月6日
- 8) 佐久間 貴文
当院におけるTULの臨床的検討
第73回西日本泌尿器科学会総会 2021年11月4日
- 9) 市川 孝治
副腎悪性腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術の術中所見についての検討
第35回日本泌尿器内視鏡学会総会 2021年11月11日
- 10) 久住 倫宏
当院での腹腔鏡下腎部分切除術の検討: 核出術と切除術の比較
第35回日本泌尿器内視鏡学会総会 2021年11月11日

- 11) 市川 孝治
腫瘍径で腹腔鏡下副腎摘除術の難易度は上がるか ―単一術者による検討―
第 109 回日本泌尿器科学会総会 2021 年 12 月 7 日
- 12) 佐久間 貴文
当院における根治的膀胱摘除術における術前化学療法 of 検討
第 109 回日本泌尿器科学会総会 2021 年 12 月 7 日
- 13) 久住 倫宏
当科で腎腫瘍の治療を行った症例の主訴についての検討
第 109 回日本泌尿器科学会総会 2021 年 12 月 9 日
- 14) 窪田 理沙
腎移植後に両側自己腎盂尿管癌・膀胱癌を治療し 5 年無再発の 1 例
第 109 回日本泌尿器科学会総会 2021 年 12 月 8 日
- 15) 和田 里章悟
膀胱アミロイドーシスの 1 例
第 329 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021 年 12 月 11 日
- 16) 津島 知靖
知って得する泌尿器科保険診療の基礎的知識(西日本編)
第 73 回西日本泌尿器科学会総会 2021 年 11 月 6 日
- 17) 市川 孝治
2021 年 NHO 岡山医療センター泌尿器科 手術統計
第 330 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2022 年 2 月 26 日

講演

- 1) 白石 裕雅
フルニエ壊疽 1 例
第 312 回岡山泌尿器科カンファレンス 2021 年 1 月 26 日
- 2) 延藤 千夏
外陰部 Bowen 病についての検討
第 316 回岡山泌尿器科カンファレンス 2021 年 5 月 25 日
- 3) 佐久間 貴文
当院におけるハイドロゲルスペーサー留置の経験
第 319 回岡山泌尿器科カンファレンス 2021 年 9 月 21 日
- 4) 久住 倫宏
Clinical Question Session 副作用のコントロール
Okayama Prostate Cancer Consensus Meeting 2021 2021 年 2 月 10 日
- 5) 市川 孝治
RCC/UC の新しい治療戦略について
RCC/UC Oncology Symposium in Okayama 2021 年 4 月 23 日
- 6) 市川 孝治
前立腺がん地域連携パスの経過について
御津医師会講演 2021 年 4 月 23 日
- 7) 市川 孝治
男性不妊治療―手術で改善が期待できる疾患 精索静脈瘤―
山陽新聞メディカ 2021 年 10 月 18 日
- 8) 久住 倫宏
オブジーボ・ヤーボイ併用療法の使用経験
IO-IO RCC WEB ライブセミナー 2022 年 2 月 14 日
- 9) 白石 裕雅
陰茎絞扼症の検討
第 322 回岡山泌尿器科カンファレンス 2022 年 1 月 25 日

座長

- 1) IO-IO RCC WEB ライブセミナー
市川 孝治 2022 年 2 月 14 日

● 診療科の特色

消化器外科(上部消化管・下部消化管・肝胆膵)、乳腺・甲状腺外科を中心に臓器別診療体制を導入し、外傷などの外科救急対応を含み幅広い診療を行っている。スタッフは消化器外科7名に、乳腺・甲状腺外科2名で、外科専修医3名が加わり、活力に満ちた診療科になっており、各々専門性を出しながら弾力的に担当をしている。

消化器外科では、腹腔鏡手術の頻度が増え、胆嚢炎・ソケイヘルニアなどの良性疾患以外に、胃癌・大腸癌などの悪性腫瘍にも用いられ、年間200例を超える。肝胆膵外科は、高度技能指定病院として安定した成績を収めている。肝切除や膵尾部切除にも腹腔鏡手術を導入している。外科全体として、根治性を損なわず合併症の少ない、体にやさしい手術を目指している。

乳腺・甲状腺外科では、傷のきれいな手術を心がけており、甲状腺手術では内視鏡手術を行っている。

腹腔鏡下手術の増加に伴い、スキルアップラボやシミュレーターを用いた研修や実技試験に積極的に参加し、手術手技の向上を図っている。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 774 件

	手術名	件数
1	結腸・直腸手術	108
2	胆嚢摘出術	94
3	胃切除術	41
4	ソケイ・腹壁ヘルニア手術	74
5	甲状腺・上皮小体手術	31
6	肝切除術	20
7	乳腺切除術	70
8	虫垂切除術	38
9	急性腹膜炎手術	5
10	小腸切除術	28

● 研究業績

論文

1) 高橋 達也, 向原 史晃, 久保 孝文, 國末 浩範, 太田 徹哉

直腸憩室炎, 膿瘍形成に合併した子宮筋層内膿瘍破裂による汎発性腹膜炎の1例

日本腹部救急医学会雑誌, 41 巻 4 号, 309~312

2021 年 7 月 31 日

学会発表

1) 藤原 拓造

腎移植生着死亡症例の死因の検討

第 38 回 中国四国臨床臓器移植研究会

2021 年 8 月

- 2) 藤原 拓造
移植腎生着死亡レシピエントの検討
第 57 回 日本移植学会総会 2021 年 9 月 1 日
- 3) 久保 孝文
当院で施行した周術期管理に難渋した 85 歳以上の膵頭十二指腸切除の 3 例の検討
第 57 回 日本胆道学会学術集会 2021 年 9 月
- 4) 秋山 一郎
甲状腺癌術後乳び漏のため頸部浮腫を生じ気管内挿管を要した 1 例
第 33 回 日本内分泌外科学会総会 2021 年 6 月 3 日
- 5) 秋山 一郎
レンバチニブを投与した甲状腺癌 21 例の NLR 推移
第 54 回 日本内分泌外科学会学術大会 2021 年 10 月 28 日
- 6) 塩入 幹汰
脾彎曲部横行結腸癌手術で腸間膜閉鎖のためトライツ靱帯付近の小腸が屈曲し腸閉塞となった 1 例
第 76 回 日本大腸肛門病学会学術集会 2021 年 11 月
- 7) 野上 智弘
縦隔内甲状腺嚢胞形成型甲状腺乳頭癌の 1 例
第 33 回 日本内分泌外科学会 2021 年 6 月
- 8) 野上 智弘
当院における乳房 Paget 病の 5 例
第 29 回 日本乳癌学会学術総会 2021 年 8 月
- 9) 藤原 拓造
当院における 2 次腎移植症例の検討
第 55 回日本臨床腎移植学会 2022 年 2 月 25 日
- 10) 塩入 幹汰
遅発性出血性ショックをきたした腹部鈍的外傷による大網損傷の 1 例
第 58 回日本腹部救急医学会総会 2022 年 3 月 24 日
- 11) 野崎 功雄
外科治療(その他)
第 75 回 日本食道学会 2021 年 9 月
- 12) 國末 浩範
一般演題 45 直腸:直腸・穿孔
第 58 回日本腹部救急医学会総会 2022 年 3 月 24 日

座長

- 1) 第 75 回 日本食道学会 2021 年 9 月
外科治療(その他)
野崎 功雄
- 2) 第 34 回 日本内視鏡外科学会 2021 年 12 月
胃十二指腸悪性腫瘍・教育
野崎 功雄
- 3) 第 58 回日本腹部救急医学会総会 2022 年 3 月 24 日
一般演題 45 直腸:直腸・穿孔
國末 浩範

● 診療科の特色

当科は腎代替療法の一つとしての腎移植をドナー、レシピエントの評価、選定から移植手術、術後の免疫抑制療法まで一貫して担当しています。当院では 1988 年より腎移植を開始、2021 年までに生体 344 例、献腎 99 例の合計 443 例の腎移植を行っています。当院は日本臓器移植ネットワークの特定移植検査施設であり、臓器移植登録時の HLA タイピング、血清の保存等の業務を担当しており、また岡山県臓器バンクと共同で臓器移植の推進、啓蒙などの社会活動も行っています。

● 入院診療実績

1. 主要手術 手術件数 80 件/年間

	手術名	件数
1	生体腎移植	8
2	献腎移植	3
3	腹膜透析カテーテル留置術、抜去術	22
4	移植腎生検	47

2. その他

2 年前より当科の専従医が1名増員となり、また小児外科に小児腎移植の専門医も配置され、さらに充実した診療が提供出来るものと思います。

● 研究業績

論文発表

なし

学会、研究会

- 1) 藤原 拓造
腎移植生着死亡例の死因の検討
第 38 回 中国四国臨床臓器移植研究会 2021 年 8 月 21 日
- 2) 藤原 拓造
移植腎生着死亡レシピエントの検討
第 57 回 日本移植学会総会 2021 年 9 月 19 日
- 3) 窪田 理沙
高用量免疫グロブリンと抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン投与を行ったドナー特異的陽性献腎移植の一例
第 57 回 日本移植学会総会 2021 年 9 月 20 日
- 4) 窪田 理沙
治療に難渋した超遅発性サイトメガロウイルス感染症の 2 例
第 55 回 日本臨床腎移植学会 2022 年 2 月 23 日

5) 藤原 拓造

当院における 2 次腎移植症例の検討
第 55 回 日本臨床腎移植学会

2022 年 2 月 25 日

座長

- 1) 第 55 回 日本臨床腎移植学会
外科的合併症 1
藤原拓造、香野日高

2022 年 2 月 23 日

● 診療科の特色

小児外科では、新生児から中学生までの頸部、胸部、腹部、腎尿路、婦人科領域の外科的疾患を扱っている。小児外科指導医 2 名（常勤医 1 名、非常勤医 1 名）、小児外科専門医 3 名、小児泌尿器科認定医 2 名、小児がん認定外科医 1 名、腎移植認定医 1 名など小児系の専門資格を有する医師が在籍している。中四国地方で最も手術件数の多い施設であり、スタッフも充実している。小児外科救急疾患に関しては基本的に 24 時間、常時対応している。当院は総合周産期母子センターに指定されており、新生児外科疾患も数多く扱っている。近年では胎児診断症例も増えているため、出生前からの検査や管理、出産後の治療まで産婦人科、新生児科と連携して行っている。悪性固形腫瘍（神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫など）の治療に関しては、国内のスタディーグループのプロトコールに準じて行っており、良好な結果が得られている。当科は小児泌尿器科疾患の治療も長年にわたり行っており、小児外科と小児泌尿器科両方の知識と手術技術を必要とする総排泄遺残症、外反症、などの治療経験も豊富である。また総排泄腔専門外来も有している。また小児腎移植に関しては、生体腎、献腎移植のいずれにも対応している。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 566 件

	手術名	件数
1	鼠径ヘルニア根治術	139
2	停留精巣固定術	77
3	臍ヘルニア手術	63
4	急性虫垂炎手術	30
5	膀胱尿管逆流症手術	17
6	小児固形腫瘍手術	5
7	尿道下裂手術	8
8	水腎症手術（腎盂形成）	6
9	重症心身障害児の手術	24
10	新生児外科手術	13

2. その他

● 教育・研修

小児外科専門医を取得でき、また実力の伴った小児外科医を育てるべく、当院の外科、小児科、新生児科と連携した研修を行ってもらっている。研修に関してはNPO法人中国四国小児外科医療支援機構に所属する他施設（倉敷中央病院、島根大学付属病院、四国こどもとおとなの医療センター、山口県立総合医療センター）と連携を図っている。

● 海外小児外科医療支援

国際ボランティア組織であるジャパンハートと協力し、年に 2 度ミャンマーもしくはカンボジアにて数多くの主要な手術を施行してきた。新型コロナの感染拡大のため、渡航が困難となり、難易度の高い手術を必要とする肝芽腫などのがん患者を受け入れ治療を行っている。また、カンボジアの病院とは定期的

に治療方針に関して、Web カンファレンスを行っている。

● 低侵襲手術

膀胱尿管逆流症に対しては経尿道的 Deflux 注入療法を施行している。鏡視下手術は虫垂炎切除術、鼠径ヘルニア根治術、噴門形成術、腎盂形成術、脾臓摘出術、良性腫瘍摘出術、高位鎖肛根治術、ヒルシュスプルング病(long segment)根治術、肺切除術などに積極的に施行している。手術術式として従来の開腹、開胸手術の方が安全で、精度が高いと考えられる疾患に関しては現時点では適応としていない。

小児外科ホームページ(<http://www.shonigeka.com/>)で当科の詳細を公開している。

● 研究業績

論文発表

- 1) 中原康雄、大倉隆宏、浮田明見、花木祥二郎、石橋脩一、高橋雄介、橋本晋太郎、後藤隆文、青山興司
肝門部に2カ所の吻合を行った胆道閉鎖症の1例
日本小児外科学会雑誌, 57 巻 6 号, 1012-1015
2021 年 10 月 20 日
- 2) 花木祥二郎、中原康雄、仲田惣一、高橋雄介、大倉隆宏、石橋脩一、人見浩介、浮田明見
標準的術後化学療法中に再発した後腎芽細胞優位型の限局型退形成腎芽腫の1例
日本小児血液・がん学会雑誌, 58 巻 1 号, 45-49
2021 年 6 月 8 日
- 3) 藤原進太郎、中原康雄、大倉隆宏、浮田明見、花木祥二郎、石橋脩一、高橋雄介、神農陽子
精巣上体炎の治療中に全般的精巣梗塞を認め精巣摘除に至った1例
泌尿器科紀要, 67 巻 7 号, 343-347
2021 年 7 月 31 日

学会

- 1) 尿失禁を主訴に発見された尿化異所開口症例の検討
Yusuke Takahashi
11th Congress of the International Pediatric Transplant Association Virtual Congress 2021 年 12 月 11 日
- 2) Fibroepithelial polyp による水腎症症例の検討
橋本 晋太郎
第 329 回日本泌尿器科学会岡山地方会
2021 年 10 月 10 日
- 3) 乳児腎盂形成術での手術用顕微鏡システム ORBEYE の使用経験
橋本 晋太郎
第 60 回日本小児外科学会中国四国地方会
2021 年 10 月 29 日
- 4) 小児腎腫瘍(Wilms vs non-Wilms)の治療前所見の比較
橋本 晋太郎
第 40 回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会
2021 年 4 月 28 日
- 5) Solid-pseudopapillary neoplasm の臨床像の検討
中原 康雄
第 58 回日本小児外科学会学術集会
2021 年 11 月 6 日
- 6) Long gap 食道閉鎖症に対する Collis-Nissen 変法
中原 康雄
第 73 回中国四国小児科学会
2021 年 10 月 29 日
- 7) 成人期以降、出産まで関与した症例の報告
中原 康雄
第 40 回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会
2021 年 10 月 10 日
- 8) 腎移植後 2 年の surveillance biopsy で蛍光抗体染色法による full-house pattern を呈した 1 小児例
中原 康雄
第 60 回日本小児外科学会中国四国地方会
2021 年 7 月 9 日
- 9) 腎移植後、反復する泌尿生殖器感染の管理に難渋した総排泄腔遺残合併慢性腎臓病の 1 小児例
高橋 雄介
第 56 回日本小児腎臓病学会
2021 年 8 月 21 日

- 10) 腎移植後 2 年の surveillance biopsy で蛍光抗体染色法による full-house pattern を呈した 1 小児例
高橋 雄介
第 38 回中国四国臨床臓器移植研究会 2021 年 9 月 19 日
- 11) FSGS 原疾患の小児慢性腎臓病患者に対する献腎移植
高橋 雄介
第 57 回日本移植学会総会 2021 年 10 月 24 日
- 12) 当科で施行した小児献腎移植の 2 例
高橋 雄介
第 37 回中国四国小児腎臓病学会 2021 年 11 月 7 日
- 13) 当科における小児腎移植後 surveillance biopsy の検討
高橋 雄介
第 73 回日本小児科学会中国四国地方会 2021 年 12 月 10 日
- 14) 発癌リスクの高い小児慢性腎臓病患者に対する療法選択
高橋 雄介
第 42 回日本小児腎不全学会 2022 年 2 月 24 日
- 15) 救急診療における小児卵巣腫瘍の画像読影に関する検討
高橋雄介
第 55 回日本臨床腎移植学会 2021 年 4 月 29 日
- 16) 治療中に骨転移巣の Flare 現象を認めた腎明細胞性肉腫の一例
浮田 明見
第 58 回日本小児外科学会学術集会 2021 年 11 月 27 日
- 17) 呼吸器症状を呈した縦隔神経芽腫の一例
浮田 明見
第 63 回日本小児血液・がん学会学術集会 2021 年 4 月 24 日
- 18) 腕頭動脈離断術 14 例の臨床的検討
浮田 明見
第 62 回中国四国小児がん・小児外科学研究会 2021 年 4 月 28 日
- 19) 初回有熱性尿路感染症後における、VCUG の重要性を再考する
大倉 隆宏
第 58 回 日本小児外科学会学術集会 2021 年 7 月 3 日
- 20) Transanal endorectal pull-through(modified Soave 法)における posterior myotomy の意義
大倉 隆宏
第 30 回 日本小児泌尿器科学会学術集会 2021 年 10 月 28 日
- 21) 二分脊椎に伴う排尿障害に対する管理方針の後方視的検討
大倉 隆宏
第 40 回 日本小児内視鏡外科・手術手技研究会 2021 年 11 月 6 日
- 22) ST 耐性 ESBL 産生 E.coli による fUTI 症例の検討
大倉隆宏
第 73 回 中国四国小児科学会 2022 年 2 月 26 日
- 23) 当院における鼠径部・陰囊部に生じた小児脈管奇形症例の臨床的検討
大倉隆宏
第 29 回 逆流性腎症フォーラム 2021 年 4 月 28 日
- 24) Letton-Wilson 手術を施行した臍頭部Ⅲb 型外傷性臍損傷の小児例
花木 祥二郎
第 58 回 日本小児外科学会学術集会 2021 年 10 月 28 日
- 25) 腹腔鏡下手術で診断・治療した外膀胱上窩ヘルニアの 1 例
花木 祥二郎
第 40 回 日本小児内視鏡外科・手術手技研究会 2021 年 4 月 30 日

- 26) 当科における covid-19 パンデミック状況下での精巣捻転症に対する治療方針
石橋 脩一
第 58 回 日本小児外科学会学術集会 2021 年 7 月 3 日
- 27) 腫瘍破裂を認めた Solid-Pseudopapillary neoplasm の 2 例
石橋 脩一
第 30 回日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会 2021 年 4 月 24 日
- 28) 当科で経験した陰茎縫線嚢腫の 3 例
石橋 脩一
第 62 回中国四国小児がん・小児外科研究会 2021 年 10 月 10 日
- 29) 移植腎動脈狭窄による移植腎機能障害を呈した小児の 1 例
石橋脩一
第 60 回日本小児外科学会中国四国地方会 2021 年 6 月 11 日
- 30) 尿失禁を主訴に発見された尿化異所開口症例の検討
石橋脩一
第 36 回腎移植・血管外科研究会 2021 年 12 月 11 日
- 座長
- 1) 第 42 回日本小児腎不全学会 2021 年 12 月 9 日
小児泌尿器科・血液浄化部門
高橋雄介

● 診療科の特色

脊椎・脊髄外科、関節外科、外傷外科(骨折等)の高度専門治療

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 1,815 件

	手術名	件数
1	骨折観血の手術(上肢)	167
2	骨折観血の手術(下肢)	214
3	人工関節置換術(股関節)	125
4	人工関節置換術(膝関節)	137
5	関節鏡下半月板縫合術	25
6	頸椎椎弓形成術	66
7	頸椎前方固定術	21
8	内視鏡下椎間板摘出術	99
9	腰椎椎弓切除術	65
10	PLIF-脊椎固定術	117

● 研究業績

論文発表

- 1) "Lorenz C Hofbauer, Richard Witvrouw, Zsuzsanna Varga, Naofumi Shiota, Malika Cremer, Laszlo B Tanko, Daniel Rooks, Lixin Zhang Auberson, Michal Arkuszewski, Nathalie Fretault, Agnes Annette Schubert-Tennigkeit, Dimitris A Papanicolaou, Chris Recknor"
"Bimagrumab to improve recovery after hip fracture in older adults: a multicentre, double-blind, randomised, parallel group, placebo-controlled, phase 2a/b trial"
Lancet Healthy Longev, 2, e263-74, 2021
- 2) "Hiroshi Furukawa, Shomi Oka, Naoki Kondo, Yasuaki Nakagawa, Naofumi Shiota, Kenji Kumagai, Keiji Ando, Tsutao Takeshita, Takenori Oda, Yoshinori Takahashi, Kazutaka Izawa, Yoichi Iwasaki, Kazuhiro Hasegawa, Hiroshi Arino, Takeshi Minamizaki, Norie Yoshikawa, Shinjiro Takata, Yasuo Yoshihara, and Shigeto Tohma"
"The Contribution of Deleterious Rare Alleles in ENPP1 and Osteomalacia Causative Genes to Atypical Femoral Fracture"
The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, 107, e1890-e1898, 2022
- 3) Suguru Yokoo, Tomohiro Fujiwara, Aki Yoshida, Koji Uotani, Takuya Morita, Masahiro Kiyono, Joe Hasei, Eiji Nakata, Toshiyuki Kunisada, Shintaro Iwata 3, Tsukasa Yonemoto 3, Koji Ueda 4, Toshifumi Ozaki
Liquid Biopsy Targeting Monocarboxylate Transporter 1 on the Surface Membrane of Tumor-Derived Extracellular Vesicles from Synovial Sarcoma
Cancers, 13, 1823 (1-20), 2021 Apr
- 4) Nishimura S, Hirai T, Nagoshi N, Yoshii T, Hashimoto J, Mori K, Maki S, Katsumi K, Takeuchi K, Ushio S, Furuya T, Watanabe K, Nishida N, Kaito T, Kato S, Nagashima K, Koda M, Nakashima H, Imagama S, Murata K, Matsuoka Y, Wada K, Kimura A, Ohba T, Katoh H, Watanabe M, Matsuyama Y, Ozawa H, Haro H, Takeshita K, Matsukura Y, Inose H, Yamazaki M, Watanabe K, Matsumoto M, Nakamura M, Okawa A, Kawaguchi Y.
Association between Severity of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis and Ossification of Other Spinal Ligaments in Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament
J Clin Med, 10(10), 4690, 2021 Oct

- 5) Hirai T, Nishimura S, Yoshii T, Nagoshi N, Hashimoto J, Mori K, Maki S, Katsumi K, Takeuchi K, Ushio S, Furuya T, Watanabe K, Nishida N, Watanabe K, Kaito T, Kato S, Nagashima K, Koda M, Nakashima H, Imagama S, Murata K, Matsuoka Y, Wada K, Kimura A, Ohba T, Katoh H, Watanabe M, Matsuyama Y, Ozawa H, Haro H, Takeshita K, Matsumoto M, Nakamura M, Yamazaki M, Matsukura Y, Inose H, Okawa A, Kawaguchi Y.
Associations between Clinical Findings and Severity of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis in Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament
J Clin Med, 10(18), 4137.2021 Sep
- 6) Katsumi K, Hirai T, Yoshii T, Maki S, Mori K, Nagoshi N, Nishimura S, Takeuchi K, Ushio S, Furuya T, Watanabe K, Nishida N, Watanabe K, Kaito T, Kato S, Nagashima K, Koda M, Ito K, Imagama S, Matsuoka Y, Wada K, Kimura A, Ohba T, Katoh H, Matsuyama Y, Ozawa H, Haro H, Takeshita K, Watanabe M, Matsumoto M, Nakamura M, Yamazaki M, Okawa A, Kawaguchi Y.
The impact of ossification spread on cervical spine function in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament
Sci Rep, 11(1), 14337, 2021 Jun
- 7) Yamamoto T, Okada E, Michikawa T, Yoshii T, Yamada T, Watanabe K, Katsumi K, Hiyama A, Watanabe M, Nakagawa Y, Okada M, Endo T, Shiraishi Y, Takeuchi K, Matsunaga S, Maruo K, Sakai K, Kobayashi S, Ohba T, Wada K, Ohya J, Mori K, Tsushima M, Nishimura H, Tsuji T, Koda M, Okawa A, Yamazaki M, Matsumoto M, Watanabe K.
The impact of diabetes mellitus on spinal fracture with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: A multicenter retrospective study
J Orthop Sci, 189–5, 2021 Jun
- 8) Mori K, Yoshii T, Hirai T, Maki S, Katsumi K, Nagoshi N, Nishimura S, Takeuchi K, Ushio S, Furuya T, Watanabe K, Nishida N, Watanabe K, Kaito T, Kato S, Nagashima K, Koda M, Ito K, Imagama S, Matsuoka Y, Wada K, Kimura A, Ohba T, Katoh H, Matsuyama Y, Ozawa H, Haro H, Takeshita K, Watanabe M, Matsumoto M, Nakamura M, Yamazaki M, Okawa A, Kawaguchi Y.
The characteristics of the young patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine: A multicenter cross-sectional study
J Orthop Sci, 147–0, 2021 Jun
- 9) Kobayashi K, Okada E, Yoshii T, Tsushima M, Yamada T, Watanabe K, Katsumi K, Hiyama A, Katoh H, Watanabe M, Nakagawa Y, Okada M, Endo T, Shiraishi Y, Takeuchi K, Matsunaga S, Maruo K, Sakai K, Kobayashi S, Ohba T, Wada K, Ohya J, Mori K, Nishimura H, Tsuji T, Watanabe K, Okawa A, Matsumoto M, Imagama S.
Risk factors for delayed diagnosis of spinal fracture associated with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: A nationwide multiinstitution survey
J Orthop Sci, 26(6), 968–973, 2021 Nov
- 10) 塩田 直史
遷延治癒骨折，偽関節
今日の整形外科治療指針，第 8 版, 63～64 2021 年 10 月 1 日
- 11) 塩田 直史
骨折の基本的整復法
今日の整形外科治療指針，第 8 版, 62～63 2021 年 10 月 1 日
- 12) 塩田 直史
大腿骨転子下骨折
今日の整形外科治療指針，第 8 版, 764～766 2021 年 10 月 1 日
- 13) 塩田 直史
骨折領域におけるシミュレーション手術
今日の整形外科治療指針，第 8 版, 765～766 2021 年 10 月 1 日
- 14) 塩田 直史
診断総論 診断
年代別四肢骨折治療のアプローチ, 34～43 2022 年 1 月 25 日

- 15) 佐藤徹、塩田直史、黒田崇之、高田直樹
POLARSTEMを用いた人工股関節前置換術の短期成績
日本人工関節学会誌, 51 巻, 477~448
- 16) 佐藤徹、塩田直史.
踵骨骨折 A. 小侵襲内固定法
足部・足関節の外傷 2021 年 7 月 31 日
- 17) 佐藤 徹
1. 脛骨・腓骨骨折一下腿の疾患 27
今日の整形外科治療指針 2021 年 7 月 13 日
- 18) 佐藤 徹
2. 足関節果部骨折一足関節、足部の疾患 28
今日の整形外科治療指針, 第 8 版
- 19) 塩田直史、横尾賢
整形外科看護 2021 年 12 月号
医療, 26 巻 12 号, 1175-1180 2021 年 12 月 25 日
- 20) 正田悦朗、横尾賢
整形外科看護 2022 年 1 月号
医療, 27 巻 1 号、46-51 2022 年 1 月 1 日

学会、研究会

- 1) 佐藤 徹
Geriatric Pelvic Ring Fracture (Educational Lecture)
2021 Annual Meeting of Taiwan Orthopaedic Trauma Meeting 2021 年 10 月 31 日
- 2) 佐藤 徹
Distal femoral fractures: when to do nailing and how?
AO Trauma Hybrid Masters Course-Fractures Around the Knee 2021 年 6 月 5 日
- 3) 佐藤 徹
Understanding Syndesmosis anatomy
AO Trauma Hybrid Masters Course-Fractures Around the Ankle 2021 年 11 月 6 日、7 日
- 4) 佐藤 徹
Revision arthroplasty around the knee-indications
AO Trauma Hybrid Masters Course-Periprosthetic Fracture Management of the Hip and Kne
2021 年 11 月 13 日、14 日
- 5) 佐藤 徹
Periprosthetic fractures around the patella and proximal tibia
AO Trauma Hybrid Masters Course-Periprosthetic Fracture Management of the Hip and Kne
2021 年 11 月 13 日、14 日
- 6) 佐藤 徹
AO Trauma Hybrid Masters Course-Periprosthetic Fracture Management of the Hip and Kne
Megaprosthesis for the hip and knee indication and limitations 2021 年 11 月 13 日、14 日
- 7) 佐藤 徹
Hoffa Fracture-where are the pitfalls
AO Trauma Masters Courses-Total Solution of the Knee with Anatomical Specimens
2021 年 11 月 18 日~20 日
- 8) 塩田 直史
固定法から見た大腿骨近位部骨折の早期社会復帰
第 94 回 日本整形外科学会学術総会 2021 年 5 月 21 日
- 9) 塩田 直史
不安定型でも CHS
第 47 回 日本骨折治療学会 2021 年 7 月 2 日

- 10) 塩田 直史
骨接合術の適応、手技
第 47 回 日本骨折治療学会 2021 年 7 月 3 日
- 11) 塩田 直史
脊椎術後増悪した FFP
第 21 回骨盤輪・寛骨臼骨折研究会 2021 年 7 月 4 日
- 12) 塩田 直史
過去の外傷ナビゲーション (fluoroscopic navigation)
第 16 回 日本 CAOS 研究会 2022 年 3 月 18 日
- 13) 日野 峻介
足関節高位外果骨折(AO/OTA 44C)タイプ別の術中 3D image を使用した腓骨の整復精度
第 16 回 日本 CAOS 研究会 2022 年 3 月 17 日
- 14) 佐藤 徹
大腿骨遠位部骨折
AO Trauma Master Course 2021 年 2 月 26 日
- 15) 佐藤 徹
Fractures around TKA
第 47 回日本骨折治療学会 2021 年 7 月 3 日
- 16) 佐藤 徹
上腕骨近位端骨折治療の治療:各治療法の適応とテクニック
OTM Symposium – Upper Extremity– 2021 年 10 月 3 日
- 17) 横尾 賢
Hemosiderotic fibrolipomatous tumor の 2 例
第 54 回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 2021 年 7 月 15 日
- 18) 横尾 賢
踵骨骨折に対する sinus tarsi approach によるロッキングプレート固定の治療成績
第 46 回 日本足の外科学会学術集会 2021 年 11 月 11 日
- 19) 梅原 憲史
大腿骨骨折を伴わない Zweymuller 型ステム折損の力学的解析
第 51 回日本人工関節学会 2021 年 7 月 7 日、8 日
- 20) 梅原 憲史
大腿骨転子部骨折術後長期間経過した変形性股関節症に対して全人工股関節置換術を行った 1 例
第 52 回日本人工関節学会 2022 年 2 月 25 日、26 日
- 21) 山根 健太郎
成人脊柱変形患者における胸椎 CT ハンスフィールド値と固定隣接椎体骨折の関係
第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2021 年 4 月 27 日
- 22) 山根 健太郎
成人脊柱変形術後の固定隣接椎体骨折に術前胸椎 CT ハンスフィールド値が与える影響
第 94 回日本整形外科学会学術総会 2021 年 6 月 10 日
- 23) 山根 健太郎
3D-exoscopic visualization using ORBEYE in spinal procedures
7th World Congress of Minimally Invasive Spine Surgery and Techniques
第 94 回日本整形外科学会学術総会 2021 年 11 月 27 日
- 24) 篠原 健介
脊椎固定術を施行した透析患者における有害事象の検討
第 30 回日本脊椎インストゥルメンテーション 2021 年 10 月 1 日
- 25) 篠原 健介
脊椎手術を行った透析患者における院内死亡例の検討
第 137 回中部日本整形外科災害外科学会 2021 年 10 月 8 日

- 26) 篠原 健介
様々な病態に対する胸腔鏡補助下胸椎前方手術の有用性
第 24 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 2021 年 11 月 25 日
- 27) 竹内 一裕
頸椎後縦靱帯骨化症における脊髄圧迫高位別 K-line 評価—K-line(+)/(−)境界の評価より得られた手術選択—
第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2021 年 4 月 22 日
- 28) 竹内 一裕
腰椎前方アプローチの低侵襲化の歩み—腰仙椎(L5/S)レベルへのアプローチは、身近となったか?—
第 28 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会 2021 年 9 月 3 日
- 29) 竹内 一裕
腰痛治療における選択肢の拡がり—MIST における MIST の立ち位置—
第 11 回最小侵襲脊椎治療学会 2021 年 10 月 28 日
- 30) 竹内 一裕
脊髄損傷患者対応における当院の役割— in と out を考える —
岡山脊髄損傷研究会 2021 年 11 月 5 日
- 31) Kazuhiro Takeuchi
Critical complications following anterior cervical spine surgery
“Chinese-Japan Spinal Surgery (中日脊椎外科新技術検討会)” 2021 年 11 月 21 日
- 32) 竹内 一裕
腰椎に対する様々な前方進入 — 前方 / 側方 アクセス の実際 —
第 8 回日本脊椎前方側方進入手術学会 2022 年 1 月 29 日
- 講演会
- 1) 塩田 直史
岡山医療センターにおける脆弱性骨折に対する多角的治療・多職種協働チーム
骨粗鬆症多職種連携セミナー 2021 年 6 月 7 日
- 2) 塩田 直史
大腿骨近位部骨折治療に対する骨接合術の実際—整復方法と内固定の実際—
第 3 回金沢大整形骨折治療セミナー 2021 年 4 月 17 日
- 3) 塩田 直史
岡山医療センターにおける脆弱性骨折に対する多角的治療・多職種協働チーム
Osteoporosis web seminar 2021 年 7 月 16 日
- 4) 塩田 直史
Intraoperative 3D-image for Trauma
Siemens seminar 2021 年 9 月 2 日
- 5) 塩田 直史
骨盤骨折の診断と治療方針
九州 Hip Next Leader's Meeting 2021 年 9 月 11 日
- 6) 塩田 直史
骨折ガイドラインを知る
HIP STEP JUMP 2021 年 9 月 15 日
- 7) 塩田 直史
CAOS を利用した外傷治療
茨城骨折診療 up to date セミナー 2021 年 9 月 22 日
- 8) 塩田 直史
Elbow Fracture 上腕骨遠位端骨折の治療戦略
OTM Symposium – Upper Extremity 2021 年 10 月 3 日
- 9) 塩田 直史
骨盤後方アプローチ
OTM EX – Pelvis & Acetabulum 2021 年 10 月 17 日

- 10) 塩田 直史
骨そしょう症治療の導入と継続するために
岡山骨粗鬆症 WEB セミナー 2021 年 10 月 20 日
 - 11) 横尾 賢
症例提示
第 30 回 吉備カンファレンス 2021 年 12 月 4 日
 - 12) 横尾 賢
大腿骨頸部骨折術後に転子下骨折を発症した 1 例
第 11 回 岡山外傷カンファレンス 2021 年 11 月 24 日
- 座長
- 1) OTM Symposium – Upper Extremity
Proximal Humerus Fracture
塩田 直史 2021 年 10 月 3 日
 - 2) Distal Radius Fracture
OTM Symposium – Upper Extremity
塩田 直史 2021 年 10 月 3 日
 - 3) steoporosis Strategy Seminar 2021 年 10 月 14 日
「脆弱性骨折なき令和を目指して～逐次療法・再投与を見据えた治療薬ロモソズマブ～」
塩田 直史
 - 4) OTM EX – Pelvis & Acetabulum 2021 年 10 月 17 日
Case discussion
塩田 直史
 - 5) 第 16 回 日本 CAOS 研究会 2022 年 3 月 17 日
外傷(骨折と術中支援デバイス)
塩田 直史
 - 6) 第 24 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 2021 年 11 月 25 日～26 日
竹内 一裕

● 診療科の特色

1. 皮膚腫瘍の診断・治療 : ダーモスコピー、皮膚超音波検査などの非侵襲的検査や生検によって診断を行います。疾患によっては他施設と連携して遺伝子診断も行います。特に悪性腫瘍では、画像診断や早期のリンパ節転移を同定するセンチネルリンパ節生検などを用いて、病状や進行度を正確に把握したうえ過不足のない適切な治療をこころがけます。外科的治療が中心となりますが、病状に応じて放射線療法、化学療法も適用します。進行期の悪性黒色腫では分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬による治療が行われます。
2. 皮膚外科手術・処置 : 外科的治療を要する皮膚疾患の治療に積極的に対応しています。良性および悪性の皮膚腫瘍、母斑、重症軟部組織感染症、膿皮症、などが適応となります。
3. 難治性皮膚疾患(自己免疫性水疱症、乾癬、掌蹠膿疱症、脱毛症、など)の診断・治療 : 視診に加え、皮膚病理組織検査、蛍光抗体検査、血清学的手法などで診断します。遺伝性皮膚疾患では他施設との連携のもとに遺伝子診断を行うこともあります。疾患によっては薬物療法のほか理学療法(紫外線療法:PUVA, narrow-band UVB, エキシマライト, など)も併用して治療します。重傷乾癬、関節症性乾癬、などでは生物学的製剤による治療が行われています。最近では難治性じんま疹、重症アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎にも生物学的製剤の適応が広がっています。
4. 皮膚病変を伴う全身性疾患の診断・治療 : 膠原病、血管炎、血液疾患、など皮膚病変を伴う全身疾患の診断と治療に当たります。しばしば皮疹が全身疾患診断の糸口になります。
5. 他科疾患の皮膚合併症への対応 : 皮膚感染症や薬疹など、他科領域の患者さんに生じた皮膚合併症や皮膚トラブルに対応し、検査、診断と治療を行います。
6. 皮膚科の救急的疾患への対応 : 急性炎症性皮膚疾患、感染症(細菌、ウイルス)、など
7. 新生児、小児皮膚疾患への対応 : 皮膚炎、感染症(ウイルス、細菌)などの一般的疾患の他、遺伝性疾患、膠原病、などの診断と治療に関わります。
8. 皮膚病理診断 : 皮膚病理診断に重点を置き、病理部と連携して正確な診断を心がけます。
9. アレルギー検査 : パッチテスト、プリックテスト、MED(最小紅斑量)測定、など

● 診療実績

1. 主要手術件数(手術室で施行したもの) 年間手術件数:251 名

疾患	症例数
良性腫瘍、母斑	138
悪性腫瘍	82
細菌感染症	14
膿皮症	4
その他	13

2. 入院主要疾患 臨床統計 年間入院件数:178 件

疾患	症例数
悪性腫瘍	57
良性腫瘍、母斑	35
細菌感染症	25
水疱症、膿疱症	13
マムシ咬傷	13
ウイルス感染症	8
皮膚炎・紅斑症・蕁麻疹	7
熱傷・外傷	5
薬疹、アレルギー	3
皮膚潰瘍、褥瘡 等	2
その他	10

3. 特殊検査法・治療

検査・治療	件数
外来処置室での手術	83
皮膚生検	399
紫外線療法	465
ダーモスコピー	375
皮膚超音波検査	234
パッチテスト	18
プリックテスト	3
MED 測定	1

● 研究業績

論文発表

- 1) 瀧川充希子,眞部恵子,浅越健治
多中心性に病変を認めた男性外陰部乳房外 Paget 病 3 例
日皮会誌, 131 巻 8 号, 1835-1840, 2021 年 7 月 20 日
- 2) 眞部恵子,浅越健治
移植後の免疫抑制患者に生じた深在性皮膚カンジダ症
皮膚病診療, 43 巻 8 号, 722-725, 2021 年 8 月 1 日
- 3) 瀧川充希子,眞部恵子,浅越健治
臍部に生じ深在性上皮性嚢腫との連続性を認めた基底細胞癌の 1 例
西日本皮膚科, 84 巻 1 号, 41-45, 2022 年 2 月 1 日

学会

- 1) 瀧川 充希子
薬剤過敏症症候群 (DIHS) 治療後に発症した水縫製類天疱瘡の 1 例
第 283 回日本皮膚科学会岡山地方会 2021 年 5 月 15 日

- 2) 浅田 志乃舞
臨床所見・ダーモスコピー所見から基底細胞癌を疑った色素性エクリン汗孔腫の1例
第283回日本皮膚科学会岡山地方会 2021年5月15日
 - 3) 眞部 恵子
脳性麻痺患者に生じた外陰部乳房外パジェット病の治療経験
第36回日本皮膚外科学会総会・学術大会 2021年5月29日
 - 4) 水田 康生
アダリムマブを使用した化膿性汗腺炎3例
第120回日本皮膚科学会総会 2021年6月10日
 - 5) 水田 康生
肉眼的無疹部にも病変を認めた多中心性無色素性の末端黒子型黒色腫
第37回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2021年7月9日
 - 6) 水田 康生
ダーモスコピーにて parallel furrow pattern を呈した足底上皮内悪性黒色腫
第284回日本皮膚科学会岡山地方会 2021年9月12日
 - 7) 水田 康生
右母指先端に発生した Fibro-osseous pseudotumor of the digits の1例
第73回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2021年10月30日
 - 8) 石井 芙美
ALK 陽性 Spitz nevus の1例
第285回日本皮膚科学会岡山地方会 2022年1月15日
 - 9) 水田 康生
左母趾に生じた verrucous skin lesions on the feet in diabetic neuropathy(VSLDN)の1例
第285回日本皮膚科学会岡山地方会 2022年1月15日
- 座長
- 1) 第36回日本皮膚外科学会総会・学術大会 2021年5月29日
手術手技3・EMPD・Echo
浅越 健治

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、2005年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数 67 件

	手術名	件数
1	子宮頸部円錐切除術	26
2	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	11
3	腹式単純子宮全摘術(ATH)	7
4	腔式単純子宮全摘術(LAVH)	5
5	附属器腫瘍摘出術(開腹)	3
6	腔式単純子宮全摘術+膣会陰形成術	3
7	子宮内膜ポリープ切除術	2
8	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)、(子宮鏡下)	2
9	腹式単純子宮全摘術-全腹腔鏡下-(TLH)	1
10	子宮内膜搔爬術	1

2. 産科診療実績

総分娩数 328、出生児数 377(死産 6)、多胎分娩数 47(双胎 45、品胎 2)でこの年度の帝王切開率は 39.6%でした。以前に比べると増加傾向にありますが、原因として母体年齢の高齢化と多胎妊娠における分娩割合の増加が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(40%)を 35 歳以上の妊婦が占め、40 歳以上の妊婦では 14%を占めています。また、近年は全国的に出産数が減少しています。当院も分娩数は減少していますが、その中で多胎妊娠の割合が増えています。当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膈分娩や双胎妊娠の経膈分娩、未熟児や低置胎盤の経膈分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016 年 10 月より、毎週火曜日と水曜日、金曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。近年の分娩数減少の中で、多胎妊娠の割合は増加傾向にあります。

● 研究業績

論文発表

- 1) M. Hayashi; R. Oi; K. Otsuki, N. Yoneda; T. Nagamatsu; R. Kumasaka; K. Miyakoshi; H. Aoki; K. Tanaka; K. Kumazawa; A. Ohkuchi; Y. Matsuda; A. Nakai
Effects of prophylactic vaginal progesterone administration on mild cervical shortening (TROPICAL study): a multicenter, double-blind, randomized trial.
Investigative and Clinical Urology, 28, 1-7, 2021 June
- 2) EN. Arai; S. Yoned; N. Yoned; M. Ito; S. Tsuda; A. Shiozaki; T. Nohira; H. Hyodo; K. Kumazawa; T. Suzuki; S. Nagasaki; S. Makino. S. Saito
Probiotics including Clostridium butyricum, Enterococcus faecium, and Bacillus subtilis may prevent recurrent spontaneous preterm delivery.
The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2022 Jan
- 3) 近藤厚生, 多田克彦, 和田誠司, 横峯正人, 石川浩史, 加藤聖子, 味村和哉, 宮内彰人, 佐世正勝, 伊藤知敬, 師田信人, 伊地俊介.
葉酸による神経管閉鎖障害の予防: 発生率, リスク因子, 葉酸サプリメントの摂取, 行政への要望.
日本周産期新生児医学会雑誌, 57 巻 1 号, 8-18
2021 年 5 月 1 日
- 4) 近藤厚生, 多田克彦, 和田誠司, 佐世正勝, 石川浩史, 師田信人, 伊地俊介, 伊藤知敬.
神経管閉鎖障害は唯一予防可能な先天異常疾患.
日本周産期新生児医学会雑誌, 31 巻, 357-362
2021 年 9 月 1 日
- 5) 上田菜月, 多田克彦, 野呂瀬一美, 中村 信, 熊澤一真.
検査キットにより検査値の差が大きかったトキソプラズマ IgM 抗体持続陽性の妊婦症例.
日本周産期新生児医学会雑誌, 57 巻 3 号, 511-515
2021 年 12 月 1 日
- 6) 中村一仁, 沖本直輝, 熊澤一真, 立石洋子, 大岡尚実, 相本法慧, 多田克彦.
双胎の子宮頸管短縮症例に対し子宮頸管ペッサリー留置中に大量出血を伴う腔壁裂傷を認めた一例.
現代産婦人科, 70 巻 1 号, 117-121
2021 年 12 月 1 日

学会

- 1) 多田 克彦
新しい FDP 基準値の適用による常位胎盤早期剥離における既存の DIC 診断基準の診断能力の比較
第 43 回日本血栓止血学会
2021 年 5 月 29 日
- 2) 多田 克彦
新しい FDP 基準値の適用による常位胎盤早期剥離における既存の DIC 診断基準の診断能力の比較
第 31 回日本産婦人科新生児血液学会
2021 年 6 月 5 日
- 3) 吉田 瑞穂
羊水過多, 胎児甲状腺腫大を認め臍帯静脈穿刺を行なった 1 例
日本超音波医学会第 57 回中国地方会
2021 年 9 月 4 日
- 4) 多田 克彦
新しい FDP 基準値の適用による常位胎盤早期剥離における既存の DIC 診断基準の診断能力の比較
第 73 回中国四国産科婦人科学会
2021 年 9 月 19 日

5) 川口 優里香

羊水過多, 胎児甲状腺腫大を認め臍帯静脈穿刺を行なった 1 例
第 507 回岡山県産婦人科専門医会

2022 年 1 月 16 日

6) 多田 克彦

分娩時大量出血における希釈性凝固障害の臨床データの特徴: 多施設共同後ろ向き症例集積研究
第 57 回日本周産期・新生児医学会

2021 年 7 月 13 日

講演会

1) 沖本 直輝

胎児発育不全の循環動態を知る
日本超音波医学会第 57 回中国地方会/第 20 回中国地方会講習会

2021 年 9 月 4 日

座長

1) 第 73 回中国四国産科婦人科学会

一般演題 第 12 群 周産期 6 周産期統計
熊澤 一真

2021 年 9 月 19 日

● 診療科の特色

当科では、眼科領域全般の多岐にわたる疾患を扱っています。ことに、眼と眼付属器の腫瘍、眼形成再建外科（担当・大島）、網膜硝子体疾患（担当・江木）、黄斑部疾患（担当・尾嶋）の診療に、意欲的に取り組んでいます。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 969 件

	手術名	件数
1	白内障手術(単独)	425
2	網膜光凝固術	167
3	硝子体手術	134 (うち 78 件は白内障手術併用)
4	後発白内障手術	89
5	眼瞼結膜腫瘍手術(悪性含む)	56
6	結膜腫瘍摘出術	39
7	眼窩腫瘍手術(悪性含む)	27
8	緑内障手術	18 (うち 13 件は白内障手術併用)
9	眼瞼形成手術	6

● 研究業績

論文発表

- Asami Nishikori, Yoshito Nishimura, Rei Shibata, Koh-ichi Ohshima, Yuka Gion, Tomoka Ikeda, Midori Filiz Nishimura, Tadashi Yoshino and Yasuharu Sato
Upregulated Expression of Activation-Induced Cytidine Deaminase in Ocular Adnexal Marginal Zone Lymphoma with IgG4-Positive Cells
International Journal of Molecular Science, 22(8), 2021
- Hiroshi Goto, Shun-ichiro Ueda, Rei Nemoto, Koh-ichi Ohshima, Yuka Sogabe, Kazuko Kitagawa, Yoko Ogawa, Tokuhide Oyama, Minoru Furuta, Atsusi Azumi, Masayuki Takahira
Clinical features and symptoms of IgG4-related ophthalmic disease: a multicenter study
Japanese Journal Ophthalmology, 2021
- 大島 浩一
第 16 章 眼窩疾患 脂肪腫・脂肪肉腫
今日の眼疾患治療指針第 4 版, 2021 年
- 大島 浩一
第 16 章 眼窩疾患 繊維腫・繊維肉腫
今日の眼疾患治療指針第 4 版, 2021 年
- 大島 浩一
第 16 章 眼窩疾患 Histiocytosis X、Langerhans 細胞組織球症
今日の眼疾患治療指針第 4 版

学会

- 大島 浩一
顔面神経麻痺により兎眼をきたした眼瞼に基底細胞癌を生じた一症例
第 8 回日本眼形成再建外科学会

2021 年 5 月 16 日

- 6) 大島 浩一
胚細胞過形成の一症例
第 54 回眼科臨床病理組織研究会(第 91 回九州眼科学会) 2021 年 5 月 28 日
- 7) 大島浩一
末梢神経に沿って浸潤した脂肪癌の一症例
第 38 回日本眼腫瘍学会 2021 年 9 月 4 日
- 8) 大島浩一
温水処理後の眼窩骨を用いて眼窩を再建した一症例
第 35 回日本眼窩疾患シンポジウム 2021 年 9 月 20 日

● 診療科の特色

当科は平成11年7月より開設された部門である。

現在は指導医1名、専攻医1名で診療を行っている。

形成外科のほぼ全般にあたる診療を行っているが、現状では約8割が小児の症例となっている。

なかでも乳児血管腫、太田母斑、異所性蒙古斑などの血管腫、あざに対するレーザー治療が診療の中心である。小児であざの面積が広範囲の場合は入院、全身麻酔下での治療も行っている。

● 診療実績

1. 主要手術 年間手術件数668件

	手術名	件数
1	外傷	38
2	先天異常	62
3	腫瘍	155
4	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	8
5	難治性潰瘍	14
6	炎症・変性疾患	10
7	美容(手術)	0
8	その他	23
9	レーザー治療	358

● 研究業績

学会

1) 末延 耕作

当院における乳児血管腫に対する治療の検討
第64回日本形成外科学会

2021年4月14日

2) 末延 耕作

岡山医療センター形成外科におけるレーザー治療について
第32回川崎医科大学形成外科学教室同門会学術集会

2021年5月22日

● 診療科の特色

当科は 2019 年 4 月以降、常勤医師1名でしのいできたが、2020 年 12 月より2名体制となり、2021 年度も医長とレジデント 1 名の計2名の体制で診療を行った。スタッフ数については、当院の規模から考えるとまだまだ少なく、手薄であることは否めないが、救急搬送患者対応や院内他科入院中の緊急開頭応需などにはほぼ支障なく対応している。

診療内容としては、これまで通り出血性脳卒中(脳出血およびくも膜下出血)、脳腫瘍(原発性および転移性)、頭部外傷を中心として手術治療ないし保存的治療を行っている。これらに加えて、2014 年以降当科では行われていなかった頸動脈狭窄症に対する手術も、適応症例においては積極的に行うようになってきている。また、小児脳神経外科に関しては、近隣のみならず岡山市南区や東区など比較的遠方からも市内の大病院を通り越して当院を受診されており、小児医療において当院が頼りにされていることを実感している。

なお、2021 年度は、COVID-19 関連で他院へ搬送せざるを得なかった要手術症例が複数例あり、新型コロナウイルス感染症の影響を少なからず受けた 1 年であった。

引き続き、『信頼できる脳神経外科』であり続けられるよう、地域医療における役割を果たしていく所存である。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 66 件

	手術名	件数
1	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	21
2	頭蓋内腫瘍摘出術	10
3	水頭症手術(シャント手術+内視鏡手術)	9
4	内頸動脈血栓内膜摘出術	7
5	頭蓋内血腫除去術(開頭)(硬膜下)	4
6	脳動脈瘤頸部クリッピング術	3
7	頭蓋内血腫除去術(開頭)(脳内)	3
8	髄液漏閉鎖術	3
9	その他	6
	計	66

● 診療科の特色

心臓血管外科では、心臓・大動脈疾患および末梢血管疾患に対する診断と手術治療を行っています。

スタッフは中井（大動脈外科、血管外科、ステントグラフト）、畝（成人心臓、大動脈外科）、吉田（成人心臓、大動脈外科）の専門医 3 名と加藤医師、門田医師の修練医 2 名の計 5 名の医師による診療体制で、全員があらゆる心臓血管外科領域の患者さんを担当し、診療にあたっており、年間 290 例余りの症例を手術しています。特に緊急手術に際しては循環器内科、麻酔科、中央手術部、救急部など多くのスタッフの協力のもとに夜間、土曜・日曜を問わず行える体制ができています。

心臓弁膜症のうち大動脈弁は弁置換術が主流ですが、僧帽弁においては自己弁を温存する弁形成術を主に行う方針としています。最近では、比較的小さな傷で行う低侵襲手術（MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery）が広まってきており、当院においても、MICS を導入しています。

人工弁置換術では機械弁と生体弁（ウシやブタからできている弁）の 2 種類から使用する弁を選ぶ必要があります。機械弁はワーファリンを一生継続的に飲む必要がありますが耐久性が高く比較的若い患者様に向いています。一方、生体弁はワーファリンを中止できるものの 10～15 年程度で壊れることが多く比較的高齢の患者様に向いています。「生体弁がどのような患者さんにおいて耐久性が高いか（長持ちするか）」という研究結果を当院畝医師が欧米学会誌に発表しており、私たちが専門とする分野でもあります。

また生体弁の耐久性向上は数十年にわたり世界中で研究と開発が行われてきた分野で具体的には、動物組織（ウシやブタ）に対する異物反応を抑える処理や抗石灰化処置（経時的な石灰化を抑える処置）です。新しい生体弁の方が一般的に高額となるため長期余命が見込めない高齢者にはひと昔前の生体弁が使用される傾向があります。我々は手術を受けていただく患者さん全員に長生きしていただき、人工弁も長持ちしてほしいと思っています。当院では、大動脈弁生体弁には 2018 年夏に国内使用が可能となった最新抗石灰化処理が行われている Inspiris 生体弁（Carpentier-Edwards 社）を全例に使用しています。

虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）の手術では、高齢者やリスクの高い患者様の増加を考慮し、人工心肺を使用しないオフポンプ冠動脈バイパス術（心臓が動いたまま行うもので少し難易度が高くなる）により、手術リスクの軽減を図っています。

肺高血圧症のうち、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対しては循環器科のカテーテル治療とともに当科でも肺動脈内膜摘除術が行われています。

大動脈瘤や大動脈解離に対しては、臓器保護の進歩、人工血管の改良などにより安全に行われるようになってきました。さらに高齢者やリスクの高い患者様に対しては、ステントグラフトを用いて、より低侵襲な手術を目指しています。

末梢動脈疾患は ASO が主ですが、間欠性跛行肢に対しては、症状や活動性などにより、運動療法・カテーテル治療・手術を組み合わせ治療しています。下肢切断の危

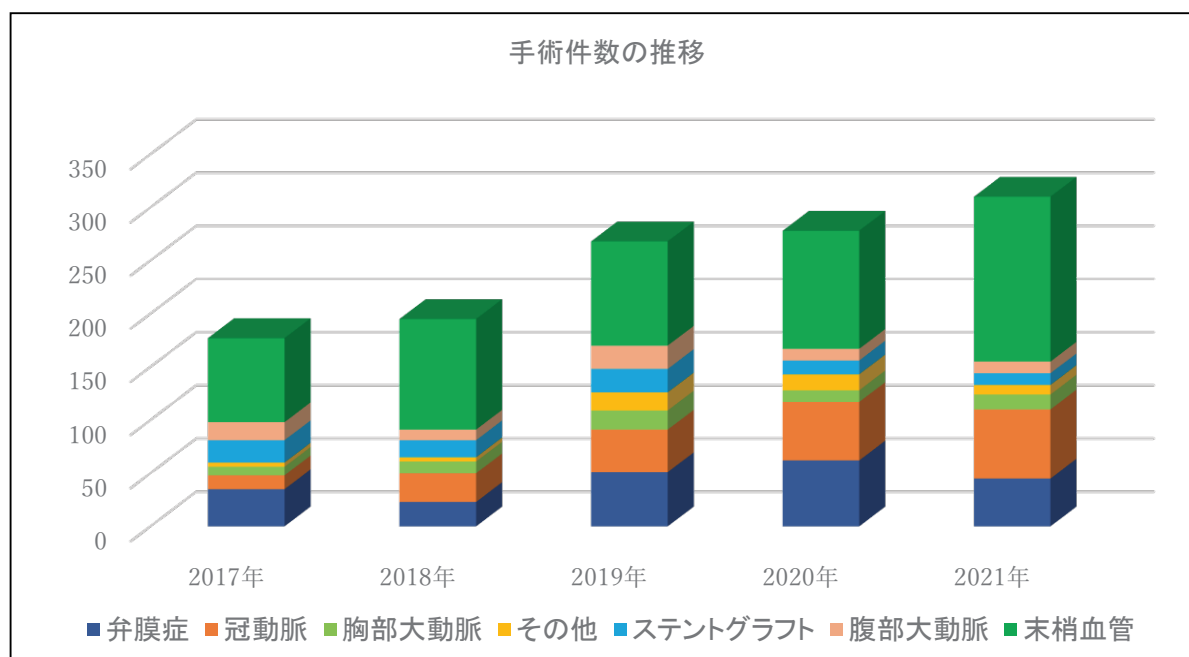
陰性がある重症虚血肢に対しては遠位までのバイパスも考慮します。

下肢静脈瘤治療では、カテーテルを下肢静脈内に挿入し放出される熱により、静脈壁を収縮・閉塞させてしまう血管内治療を導入しました。カテーテルを差し込む小さな傷口だけで済ませることが出来ます。

● 手術件数の推移

手術数合計(表中の太字の数字)に重複カウントはありません

	2017年 1～12月	2018年 1～12月	2019年 1～12月	2020年 1～12月	2021年 1～12月
心臓胸部大動脈手術(開心術)	45	64	111	124	110
弁膜症手術(複合手術含む)	35	23	51	62	45
冠動脈手術(複合手術含む)	13	27	40	55	65
胸部大動脈手術(複合手術含む)	8	11	18	11	14
その他 (心室中隔穿孔、心臓腫瘍、肺動脈血栓内膜 摘除など)	4	4	17	15	9
ステントグラフト内挿術	21	16	22	13	11
胸部大動脈	8	9	11	5	5
腹部大動脈	13	7	11	8	6
腹部大動脈手術(開腹)	17	10	22	11	11
末梢血管手術	79	104	98	111	155
合 計	162	194	253	259	287



● 2021 年度の取り組み

緊急症例など他院からのご紹介に対して、心臓血管外科医同乗のもと救急車(ドクターカー)でお迎えに伺っています。

論文発表

- 1) Nakamura M, Yaku H, Ako J, Arai H, Asai T, Chikamori T, Daida H, Doi K, Fukui T, Ito T, Kadota K, Kobayashi J, Komiya T, Kozuma K, Nakagawa Y, Nakao K, Niinami H, Ohno T, Ozaki Y, Sata M, Takanashi S, Takemura H, Ueno T, Yasuda S, Yokoyama H, Fujita T, Kasai T, Kohsaka S, Kubo T, Manabe S, Matsumoto N, Miyagawa S, Mizuno T, Motomura N, Numata S, Nakajima H, Oda H, Otake H, Otsuka F, Sasaki KI, Shimada K, Shimokawa T, Suzuki T, Takahashi M, Tanaka N, Tsuneyoshi H, Tojo T, Une D, Wakasa S, Yamaguchi K, Akasaka T, Hirayama A, Kimura T, Matsui Y, Miyazaki S, Okamura Y, Ono M, Shiomi H, Tanemoto K; Japanese Circulation Society Joint Working Group
JCS/JSCVS2018 Guideline on Revascularization of Stable Coronary Artery.
Circulation Journal 日本循環器学会 CircJ.86(3)477-588,2022 Feb
- 2) 井上善紀、浪口謙治、衣笠由祐、松野祐太郎、児玉裕司、堀江弘夢、中川さや子
Off the Job Training をはじめとする手術手技トレーニングの現状
日心外会誌 50 巻 4 号 U-1~U-5 2021 年 6 月 7 日

学会

- 1) 畝 大
術後抗血小板薬 抗凝固薬の使用法
第 26 回 日本冠動脈外科学会学術大会 2021 年 7 月 15 日
- 2) 畝 大
冠動脈バイパス術後脂質コントロールの推奨と実際、LDL-chol は本当に 70mg/dl まで下げる必要があるのか？
第 35 回 日本冠疾患学会学術集会 2021 年 12 月 18 日
- 3) 畝 大
冠動脈バイパス術後の抗血小板薬・抗凝固薬の推奨と実際
第 35 回 日本冠疾患学会学術集会 2021 年 12 月 18 日

● 診療科の特色

主に他院からの紹介にて入院での治療・手術が必要な患者さんの診察をしています。頭頸部悪性腫瘍(口腔癌・咽頭癌・喉頭癌など)を始め、耳鼻咽喉科領域の良性腫瘍、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎等の耳鼻咽喉科の一般診療を手術・入院加療を中心に行っています。現在、耳鼻咽喉科専門医 3 人+レジデント1人体制で担当しています。副鼻腔疾患は内視鏡を用いた手術的治療、中耳・喉頭の領域では機能再建をめざした治療、頭頸部悪性腫瘍では手術や放射線化学療法を併用した治療を行っています。地域の開業医の先生方と協力しながらより良い医療を提供できるよう努力していきます。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 318 件(同時に両側したものは2件とし、別の手術はそれぞれカウントする)

年間手術患者数 286 人(1 人に対して別の日に手術を行った場合は 2 人とカウントする)

	手術名	件数
1	口蓋扁桃手術(摘出)	90
2	内視鏡下鼻内副鼻腔手術	34
3	アデノイド切除術	31
4	鼻中隔矯正術	20
5	耳下腺腫瘍摘出術	18
6	粘膜下鼻甲骨切除術	16
7	鼓膜(廃液、換気)チューブ挿入術	15
8	顎下線腫瘍摘出術	9
9	中咽頭腫瘍摘出術	8
10	咽頭ポリープ切除術	6

2. その他(2020 年度の特別な取り組み)

1) 学会発表・論文発表

a) 岡山大学を中心とした頭頸部外科の治療の研究グループに参加しています。

● 研究業績

論文発表

- 1) Hematopoietic stem cell transplantation for diffuse large B-cell lymphoma having 8q24/MYC rearrangement in Japan
Hematological Oncology
- 2) Sawako Ono, Hidenori Marunaka ,Hiroyuki Yanai ,Hotaka Kawai ,Kiyofumi Takabatake ,Kenji Nishida ,Tomohiro Toji ,Keisuke Nakano ,Hitoshi Nagatsuka and Tadashi Yoshino
Lymphoepithelial Carcinoma in the Lateral Tongue: The Case Report
Reports,4(3),24,2021 Aug

● 診療科の特色

1. 現在スタッフ 7 名、研修医 4 名で、病院の中央部門である手術室での麻酔管理と集中治療室での治療を行っています。

● 入院診療実績

1. 麻酔科管理 2,767 例
2. ICU 管理症例 431 例(術後症例 325 例、非術後症例 106 例)

● 研究業績

- 1) Kenzo Ishii 1,2*, Kosuke Kuroda 2, Chika Tokura3, Masaaki Michida4, Kentaro Sugimoto5, Tetsufumi Sato6, Tomoki Ishikawa7, Shingo Hagioka8, Nobuki Manabe9, Toshiaki Kurasako10, Takashi Goto11, Masakazu Kimura12, Kazuharu Sunami13, Kazuyoshi Inoue14, Takashi Tsukiji15, Takeshi Yasukawa16, Satoshi Nogami17, Mitsunori Tsukioki18, Daisuke Okabe19, Masaaki Tanino20 & Hiroshi Morimatsu 2
scientific reports,12(1), 2185,
Current status of delirium assessment tools in the intensive care unit: a prospective multicenter observational survey
2022 Feb